

はじめに

本調査は、当金庫のお取引先のご協力により昭和50年7月から実施しているものです。四半期ごとに調査を行い、D.I.を中心として分析を行っています。

なお、当金庫では6種類の一般業種のほか、地域金融機関として地場産業に重点を置いた調査を行い、次の8業種を選定しております。

- ① 縫製業
- ② 電子部品・半導体製造業
- ③ 漆器業
- ④ 木材業
- ⑤ 建具業
- ⑥ 織布業
- ⑦ 繊維・雑品業
- ⑧ 観光業

今回の調査は、令和4年7月～9月期の業況実績と、令和4年10月～12月期の見通しについて、管内519先の事業所を対象に実施いたしました。

些かなりとも経営のお役に立てていただければ幸いです。

※D.I. (Diffusion Index) 拡張指数

不変部分を除いて増加（上昇）したとする企業と、減少（下降）したとする企業の全体に占める構成比のどちらの力が強いかを比べて、時系列的に景気のベクトルの傾向を見る方法です。

**** 目次 ****

1. 概況	1
2. 地区内の業況D.I.推移	2
3. 一般業種の業況	
(1) 製造業	3
(2) 卸売業	4
(3) 小売業	5
(4) サービス業	6
(5) 建設業	7
(6) 不動産業	8
4. 地場産業の業況	
(1) 能登地区の縫製業	9
(2) 能登地区の電子部品 ・半導体製造業	10
(3) 能登地区の漆器業	11
(4) 能登地区の木材業	12
(5) 能登地区の建具業	13
(6) 能登地区の織布業	14
(7) 能登地区の繊維・雑品業	15
(8) 能登地区の観光業	16
5. 経済指標	17～18
6. 特別調査 中小企業におけるSDGs（持続可能な開発 目標）の取り組み状況について	19

(注) 令和4年7月～9月を今期、令和4年4月～6月を前期、令和4年10月～12月を来期という、以下同じ。

調査対象企業の業種別先数および有効回答数

	依頼先	有効回答数	回答率 (%)	構成比 (%)
製造業	150	138	92.0	28.7
卸売業	24	22	91.6	4.6
小売業	149	138	92.6	28.7
サービス業	89	83	93.2	17.3
建設業	85	78	91.8	16.3
不動産業	22	21	95.4	4.4
合計	519	480	92.5	100.0

◇◆◇ 概 況 ◇◆◇

《 2022 年 7 月～9 月》

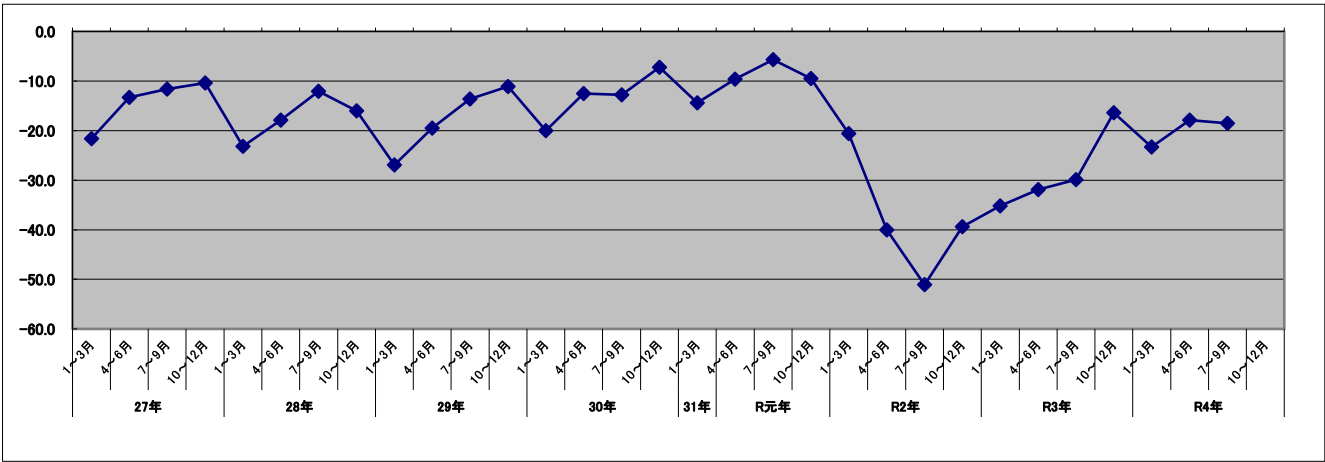
今年 2 月 24 日にロシアがウクライナ侵攻を開始してから半年以上が経つが、未だに終息の目処は立っていない。それにより物流が滞ったことで世界的に物価の高騰が起こり、日本でも原油・液化天然ガスや穀物が影響を受けて価格高騰し、食料品など生活必需品にも全般的に物価高騰の波が広がった。加工品を含め、多様な品物の値上げが段階的に敢行されている。ものによってはまだまだ値上がりするとの予想もあり、これから更に影響は出てくると見たほうがよいだろう。また、コロナウイルスの第 7 波がピークを過ぎて徐々に沈静化してきたが、新たな変異株が発見されたことや、再拡大の恐れもあるなど、予断を許さない状況である。

こうした中で、当金庫営業地区の今期（令和 4 年 7 月～9 月）業況 D.I. は、△18.5（前期△17.9）とほぼ横這いとなった。地区内全般ではサービス業、建設業、不動産業は改善し、製造業、卸売業、小売業が悪化し、不動産業は横這いの見込みに対して改善、建設業の改善は予想よりもやや少なく、製造業が前期の改善する見込みに対して悪化し、その他の業種は見込み通りであった。地場産業では唯一観光業のみが改善し、繊維・雑品業は横這い、縫製業、漆器業、織布業がやや悪化し、電子部品・半導体製造業、木材業、建具業が大きく悪化した。半導体供給の遅れや木材高騰の影響が長く続いている。前期横這いの見通しであった縫製業、電子・半導体製造業、漆器業、木材業は悪化し、改善すると見ていた建具業、織布業が大きく悪化。繊維・雑品業と観光業は見込み通りの結果であった。地場産業で予測と違う結果の業種が多く見られ、先読みの難しい局面を迎えている。

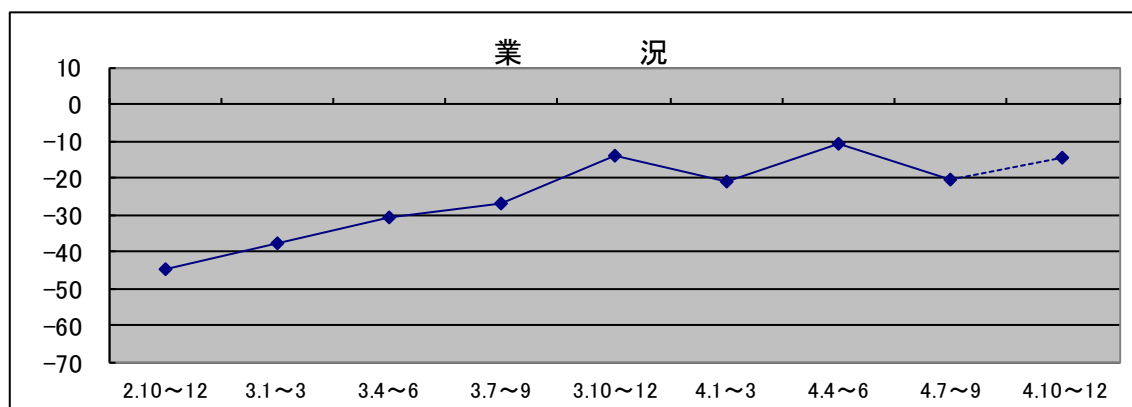
日本政府としては、「Go To トラベル」に代わる全国旅行支援を早ければ 9 月中に開始する方向で調整に入り、9 月下旬の 3 連休明けから年末までを支援対象とする案が出ている。新型コロナの水際対策も緩和し、1 日あたり 5 万人の入国者数上限を 10 月にも撤廃する方向で調整中である。国内の旅行割引と、円安のメリットを生かす水際対策の再緩和により、地域経済を立て直そうとする計画を推進している。また、医療機関の事務負担軽減措置として、医療機関の陽性者報告にかかる患者発生届出見直しを 9 月 26 日から始めた。発生届出対象が『65 歳以上の方』、『入院を要する方』、『重症化リスクがあり投薬治療や酸素投与が必要な方』、『妊婦』に限られ、それ以外の方については発生届出の対象外で、医療機関としての対応は患者数などの報告のみとなり、報告にかかる手間が軽減される。去年はインフルエンザの爆発的な流行は無かったが、今年はどうなるか分からない。医療機関はコロナウイルスの対応をしながら通常医療の受け入れ態勢も整備しておかなくてはならず、感染爆発が起こると医療体制が崩壊する恐れがある。一人ひとりが感染防止の意識をしっかりと持ちながら、経済活動を行っていききたいものである。

地区内の業況D. I. 推移

年	期間	業況D. I.	年	期間	業況D. I.
H27年	1~3月	△ 21.6	H31年	1~3月	△ 14.4
	4~6月	△ 13.3	R元年	4~6月	△ 9.6
	7~9月	△ 11.6		7~9月	△ 5.7
	10~12月	△ 10.4		10~12月	△ 9.5
H28年	1~3月	△ 23.2	R2年	1~3月	△ 20.6
	4~6月	△ 17.9		4~6月	△ 40.0
	7~9月	△ 12.1		7~9月	△ 51.1
	10~12月	△ 16.0		10~12月	△ 39.4
H29年	1~3月	△ 26.9	R3年	1~3月	△ 35.2
	4~6月	△ 19.5		4~6月	△ 31.9
	7~9月	△ 13.6		7~9月	△ 29.9
	10~12月	△ 11.1		10~12月	△ 16.4
H30年	1~3月	△ 20.0	R4年	1~3月	△ 23.3
	4~6月	△ 12.5		4~6月	△ 17.9
	7~9月	△ 12.8		7~9月	△ 18.5
	10~12月	△ 7.2		10~12月	



製造業



【概 況】

今期（R 4.7月～9月）の業況D.I.は△20.3と、前期（△10.8）より悪化した。全ての項目で悪化を示しており、材料価格の高騰が影響している。ロシアのウクライナ侵攻と円安の影響が出始めたことが原因であるとみられ、製造業のほとんどが業況悪化と回答した。

景気が好転する時期が未定であり、動向には注視が必要である。

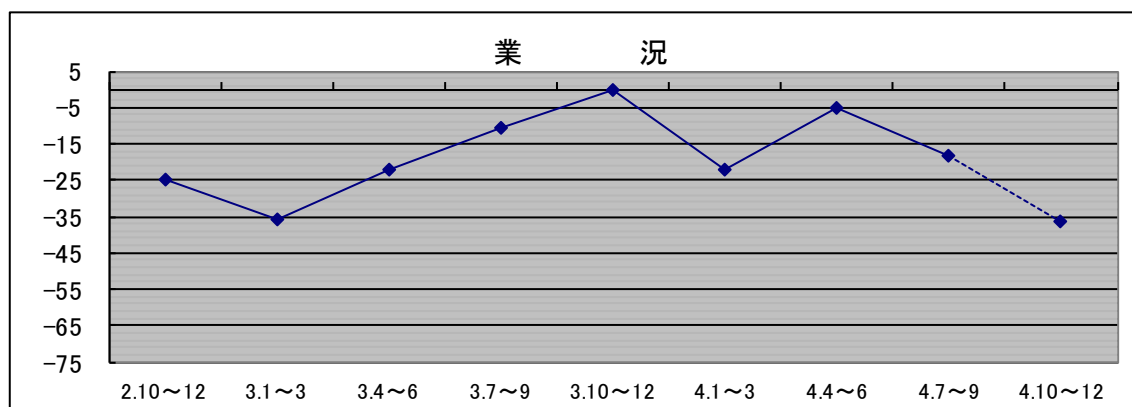
来期（R 4.10月～12月）の業況D.I.は△14.5とやや改善の見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△44.8	△37.7	△31.0	△26.8	△13.9	△20.9	△10.8	△20.3	△14.5	
売 上	△18.8	△38.2	△29.4	△19.5	△3.1	△15.0	△2.2	△15.2	△5.1	
収 益	△20.8	△38.7	△28.9	△13.7	△10.8	△17.6	△10.8	△21.7	△11.6	
資金繰り	△14.6	△13.6	△15.5	△7.9	△10.3	△8.0	△7.2	△11.6	△13.0	
人 手	△2.6	△3.7	△3.2	△3.2	△2.6	△3.2	△3.6	△5.1	△7.2	
設 備	△2.1	△2.6	1.1	△2.6	△3.1	△2.1	△2.2	△3.6	△2.2	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
原材料高	18.2%	提携先を見つける	27.1%
売上の停滞・減少	15.0%	販路を広げる	16.9%
輸入製品との競争の激化	11.3%	経費を節減する	16.6%

卸売業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.は、△18.2（前期△5.3）と悪化した。個人消費は持ち直してきているが、物価の高騰が続いている影響が大きいと思われる。

建材、資源回収、種苗・園芸用品は前期に比べて需要があり、生活雑貨、漆器、鶏卵などは消費低下が続き、厳しい状況が続いているとの回答が目立った。卸売業の半数近くは横這いとの回答であり、取扱商品によって業況はまちまちである。

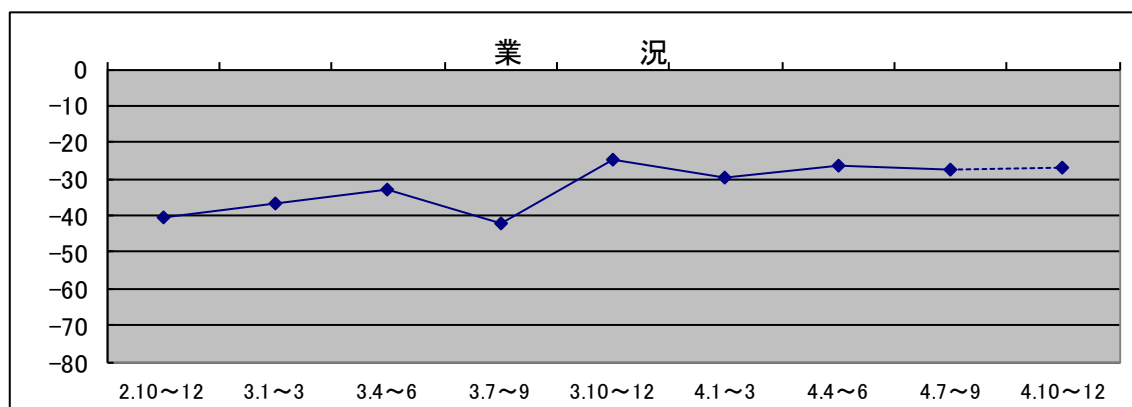
来期（R 4.10月～12月）の卸売業全体の見通しは、物価の値上がりで例年よりも消費が少ないのではないかとの予想から、△36.4と悪化の見込み。他全ての項目で悪化か横這いを予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△25.0	△35.7	△22.2	△10.7	0.0	△22.2	△5.3	△18.2	△36.4	
売上	△17.9	△53.6	△25.9	△21.4	△3.6	△14.8	15.8	9.1	0.0	
収益	△14.3	△50.0	△18.5	△25.0	△7.1	△18.5	5.3	△22.7	△31.8	
仕入価格	0.0	△14.3	11.1	21.4	25.0	51.9	47.4	45.5	45.5	
在庫	△10.7	△3.6	△3.7	△14.3	△7.1	△3.7	0.0	△4.5	△9.1	
資金繰り	△21.4	△21.4	△22.2	△14.3	△3.6	3.7	△26.3	△18.2	△18.2	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	15.4%	提携先を見つける	33.3%
売上の停滞・減少	13.5%	経費を節減する	20.4%
合理化の不足	13.5%	販路を広げる	16.7%

小売業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）の業況D.I.は△27.5（前期△26.3）とほぼ横這いを示した。業況の改善は足踏みしている。販売価格は上昇し収益もやや改善したが、円安等による物価高の影響もあり、一概に良い状態であるとは言えない。

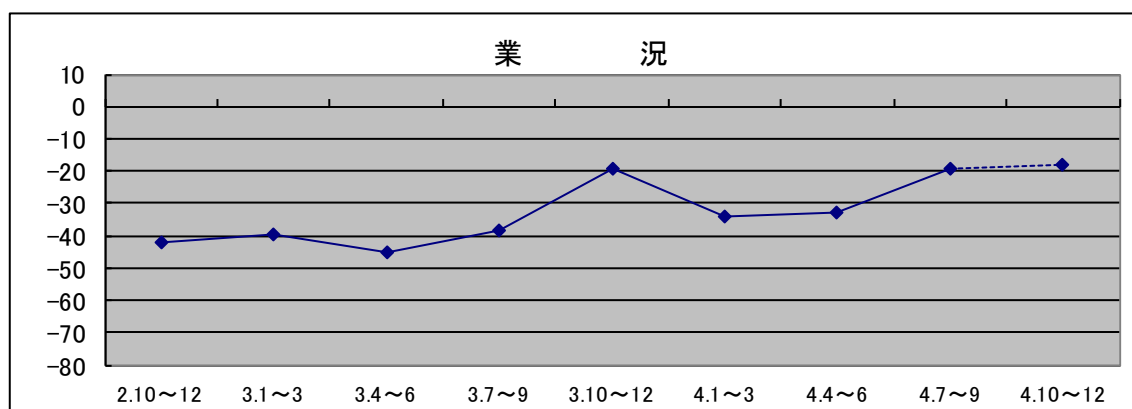
来期（R 4.10月～12月）業況D.I.については△26.8とほぼ横這いを予想。他の項目では販売価格の悪化以外は、若干の改善を予想。ロシアのウクライナ侵攻や円安等が悪影響を及ぼすことも考えられ、楽観はできない状況である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△40.8	△36.7	△33.1	△42.2	△24.5	△29.4	△26.3	△27.5	△26.8	
売上	△30.4	△36.2	△30.9	△34.4	△14.7	△22.6	△19.7	△13.8	△5.1	
収益	△29.9	△34.0	△29.8	△34.4	△14.7	△26.0	△27.0	△22.5	△11.6	
販売価格	△7.6	△2.1	△2.2	△2.8	7.6	11.9	17.5	28.3	23.9	
在庫	△4.3	0.5	0.0	△0.6	1.6	1.1	△7.3	0.7	2.2	
資金繰り	△8.7	△11.2	△12.9	△12.8	△13.0	△11.9	△12.4	△8.7	△7.2	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
地価の高騰	20.0%	仕入先を開拓・選別する	28.8%
商圈人口の減少	16.3%	経費を節減する	22.1%
売上の停滞・減少	15.7%	宣伝・広告を強化する	12.3%

サービス業



【概況】

今期（R 4.7～9月）業況D.I.は△19.3（前期△32.9）と改善を示した。

開催するイベントも少しずつ増え、県内外からの観光客も増えてきている。その中で売り上げ・収益・資金繰りは改善しており、料金価格については再びプラスに転じた。少しずつ行事や催事の開催が増えてきており、業況の改善に繋がっている。コロナの第七波が沈静化してきているが、新たな変異種の発生が確認されており、今後感染の再拡大が懸念されるなどの不安要素は残る。

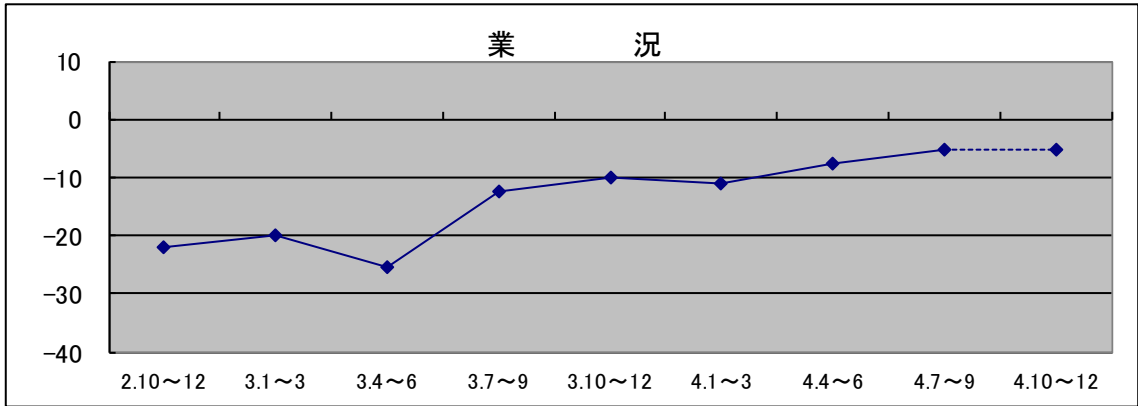
来期（R 4.10月～12月）業況D.I.は△18.1とほぼ横這いを予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△42.1	△39.8	△45.1	△38.1	△19.1	△33.9	△32.9	△19.3	△18.1	
売上	△32.5	△31.9	△46.0	△32.7	△1.7	△26.8	△25.9	△14.5	7.2	
収益	△31.6	△31.0	△41.6	△31.0	△2.6	△26.8	△25.9	△9.6	4.8	
料金価格	△7.9	△3.5	△3.5	△8.8	0.9	10.7	△4.7	10.8	10.8	
資金繰り	△17.5	△17.7	△14.2	△21.2	△10.4	△16.1	△21.2	△7.2	△1.2	
設備	△1.8	△5.3	△1.8	△3.5	△5.2	△8.9	△5.9	△6.0	△6.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
利幅の縮小	15.8%	提携先を見つける	30.5%
売上の停滞・減少	14.0%	経費を節減する	22.7%
同業者間の競争の激化	13.1%	宣伝・広告を強化する	14.5%

建設業



【概況】

前期（R 4.4月～6月）において今期（R 4.7月～9月）の業況D.I.は悪化するとの予想をしたが、引き続き公共工事等に動きがあったことで△5.1（前期△7.5）と改善基調を保った。収益・請負価格は改善したが、未だ木材価格の高騰が収まっていないことで民間工事や一般住宅の建設は低調が続き、売上は悪化した。

経営上の問題点では『材料価格の上昇』が二位となり、材料価格の上昇が悪影響を及ぼしている。

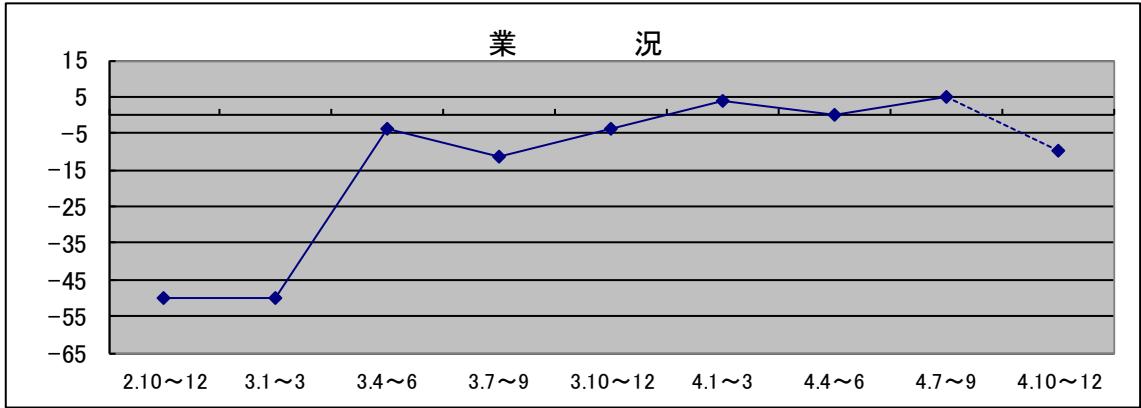
来期（R 4.10月～12月）の業況D.I.は△5.1と横這いを予想。請負価格・人手は悪化を予想しているが、売上・収益・資金繰りについては改善を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△22.1	△19.8	△25.3	△12.5	△10.2	△11.2	△7.5	△5.1	△5.1	
売上	△16.3	△22.1	△19.5	△6.8	△12.5	△9.0	△1.2	△5.1	3.8	
収益	△10.5	△12.8	△13.8	△6.8	△12.5	△11.2	△16.2	△10.3	△2.6	
請負価格	△9.3	△7.0	△12.6	△5.7	△2.3	△5.6	11.2	14.1	12.8	
資金繰り	△10.5	△15.1	△10.3	△9.1	△8.0	△7.9	△6.2	△7.7	△1.3	
人手	△12.8	△14.0	△6.9	△8.0	△8.0	△12.4	△7.5	△7.7	△10.3	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
人件費以外の経費の増加	21.9%	技術力を高める	31.6%
材料価格の上昇	14.9%	経費を節減する	22.7%
同業者間の競争の激化	13.0%	販路を広げる	10.2%

不動産業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）の業況D.I.は4.8（前期0.0）と改善を示した。売上・販売価格が改善し、収益はほぼ横這い、在庫と資金繰りが悪化した。しかし戸建ての新築物件などに関しては、価格高騰の中で好調な売れ行きとは言えず、楽観視はできない。経営上の問題点に前期になかった『商品物件の高騰』が挙がっており、価格高騰を意識している。

9月に全国の基準地価が発表され、県内の基準地価は住宅地・商業地どちらも上昇し、平均変動率は住宅地では0.9%上昇、商業地は△0.3と昨年に比べ下落幅が縮小しており、堅調に推移している一方で、宝達志水町以北は地価が下がっており、能登地区については厳しい状況が続いている。

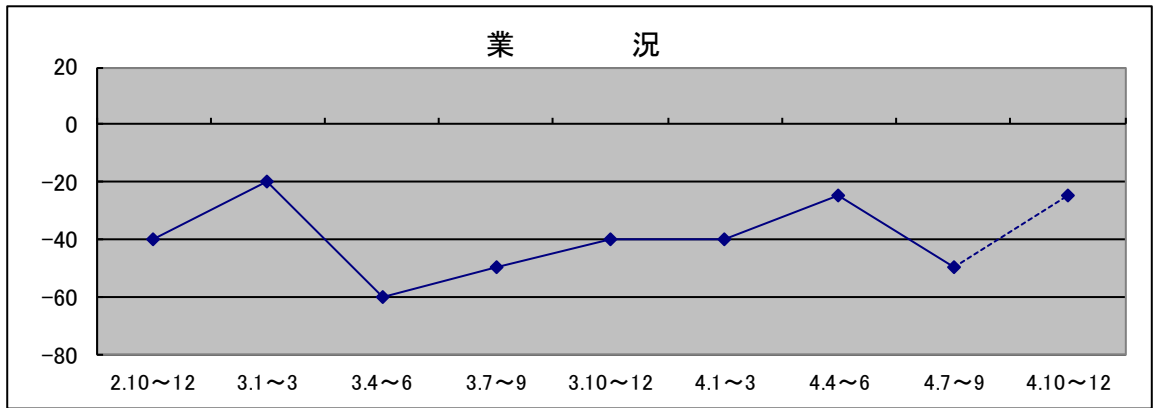
来期（R 4.10月～12月）の業況D.I.は△9.5と悪化の予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	△50.0	△36.0	△4.0	△11.5	△3.8	3.7	0.0	4.8	△9.5
売上	△34.6	△36.0	△4.0	△19.2	△11.5	△7.4	△10.0	4.8	△14.3
収益	△34.6	△36.0	△8.0	△7.7	△7.7	0.0	10.0	9.5	△9.5
販売価格	△7.7	△16.0	△8.0	△3.8	0.0	7.4	15.0	19.0	19.0
在庫	△3.8	△4.0	△16.0	△7.7	0.0	0.0	△15.0	△19.0	△19.0
資金繰り	△19.2	△16.0	△12.0	△7.7	△3.8	3.7	△5.0	△19.0	△19.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	26.5%	提携先を見つける	22.6%
売上の停滞・減少	20.6%	販路を広げる	20.8%
商品物件の高騰	20.6%	宣伝・広告を強化する	17.0%

能登地区の縫製業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）の業況D.I.は△50.0と前期（R 4.4月～6月）の△25.0より悪化し、前回の見通しよりも悪い結果となった。他の項目については予測数値の通りの結果となっている。

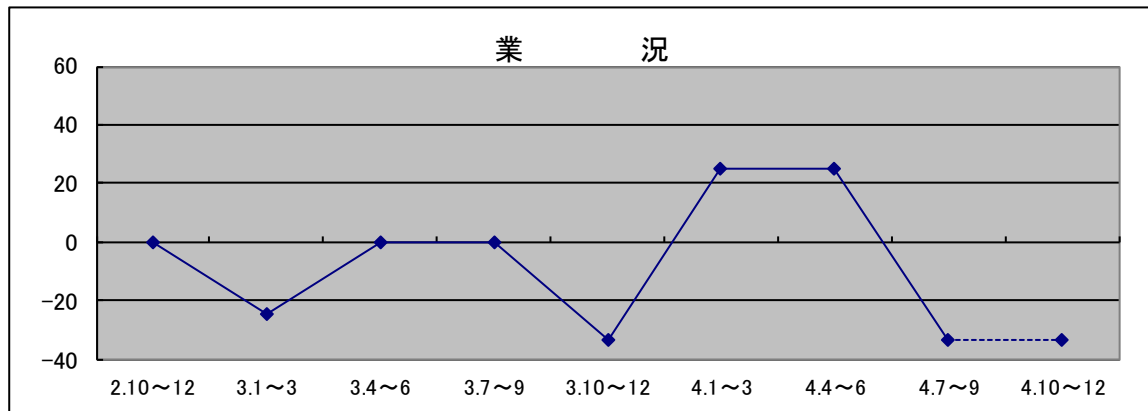
令和3年4月～6月から前期まで業況は回復基調を保ってきたが、今期は一旦下降した。例年通りであれば来期（R 4.10月～12月）は繁忙期であることから、業況・売上・収益は大きく改善を予想、資金繰り・設備は横這い、人手が悪化の予想となっている。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	△40.0	△20.0	△60.0	△50.0	△40.0	△40.0	△25.0	△50.0	△25.0
売上	20.0	0.0	△60.0	0.0	△20.0	20.0	25.0	0.0	50.0
収益	0.0	△20.0	△60.0	0.0	△20.0	0.0	25.0	△25.0	25.0
資金繰り	0.0	0.0	△20.0	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人手	0.0	△40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	△25.0	△25.0	△50.0
設備	0.0	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	28.6%	新製品・技術を開発する	33.3%
輸入製品との競争の激化	14.3%	人材を確保する	22.2%
人件費の増加	14.3%	販路を広げる	11.1%

能登地区の電子部品・半導体製造業



【概 況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.について△33.3と大幅に悪化した。

しかし、業況以外の数値に関して売上はやや改善、収益・資金繰りは大きく改善、人手も改善し、設備は横ばいとなった。業況の悪化がまだ他項目の実数には反映されていない状況である。

半導体需要の高まりに対して供給は未だに改善していないが、世界的な大手半導体メーカーは2022年下期から半導体不足が解消されていくとの見解を示している。

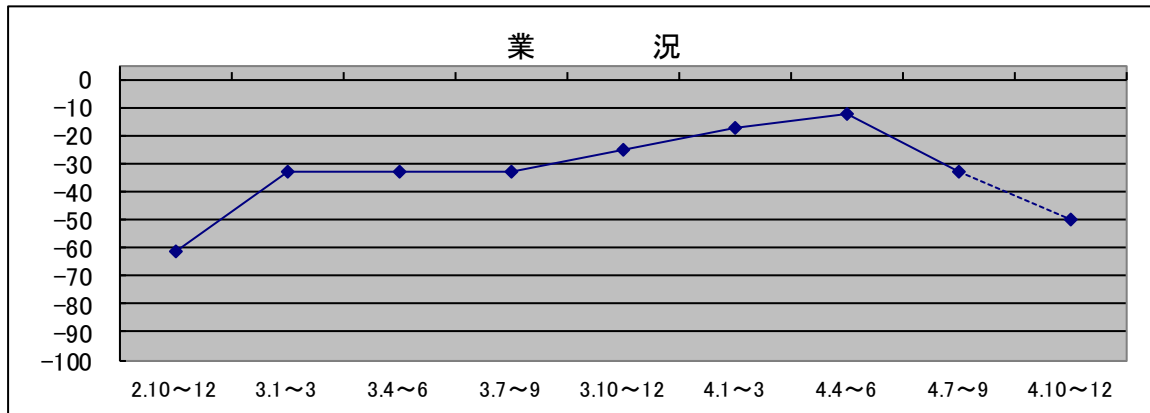
来期（R 4.10月～12月）は、業況D.I.は横這い、収益と資金繰りについては悪化を予想し、他の項目は横這いと、今期よりも悪い状況になると予想している。改善の時期が見えず、今後の動向について注視が必要である。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	0.0	△25.0	0.0	0.0	△33.3	0.0	25.0	△33.3	△33.3	
売 上	40.0	△25.0	△50.0	0.0	0.0	40.0	△50.0	△33.3	△33.3	
収 益	40.0	△25.0	50.0	0.0	△66.7	40.0	△50.0	0.0	△33.3	
資金繰り	0.0	0.0	0.0	0.0	△33.3	0.0	△50.0	0.0	△33.3	
人 手	△20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△20.0	△25.0	0.0	0.0	
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	28.6%	経費を節減する	20.0%
輸入製品との競争の激化	28.6%	情報力を強化する	20.0%
原材料高	28.6%	提携先を見つける	20.0%

能登地区の漆器業



【概 況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.は△33.3（前期△12.5）と悪化、他の項目においても横這いか悪化を示した。海外観光客の入国制限が解除されたが、依然としてコロナ禍以前の水準には遠く、厳しい業況が続いている。

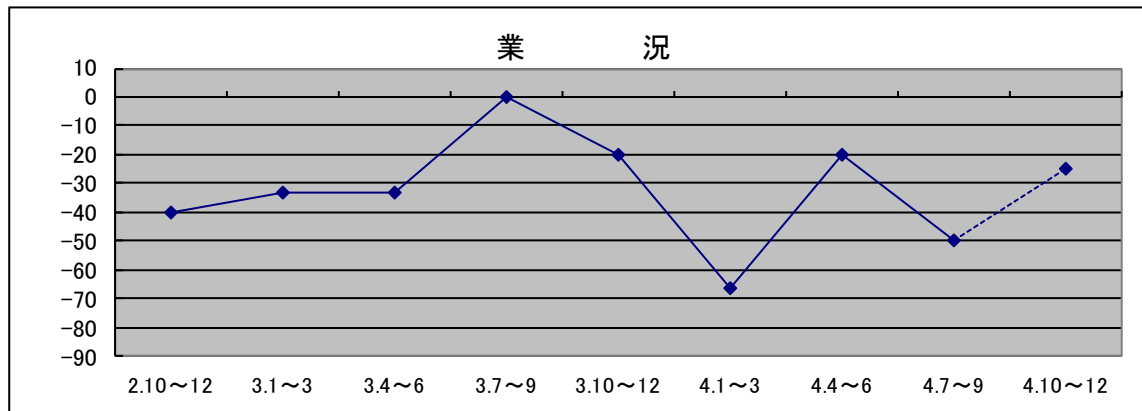
来期（R 4.10月～12月）は冬のシーズンになり、旅行者が増加する時期ではあるが、目立った改善要因が無く厳しい状況が続くと予想しており、資金繰りと人手は横這い、それ以外の項目では悪化を予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△61.1	△33.3	△33.3	△33.3	△25.0	△17.6	△12.5	△33.3	△50.0	
売 上	△33.3	△33.3	△44.4	△33.3	△6.2	△17.6	△12.5	△16.7	△33.3	
収 益	△33.3	△33.3	△38.9	△27.8	△12.5	△17.6	△12.5	△33.3	△50.0	
資金繰り	△38.9	△22.2	△16.7	△27.8	△25.0	△5.9	△12.5	△50.0	△50.0	
人 手	0.0	0.0	5.6	5.6	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
設 備	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△16.7	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	27.8%	販路を広げる	21.4%
同業者間の競争の激化	16.7%	提携先を見つける	21.4%
輸入製品との競争の激化	11.1%	経費を節減する	14.3%

能登地区の木材業



【概 況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.は△50.0と前回の△20.0に比べ悪化し、他全ての項目の数値が悪化しており、木材価格の高止まりが影響している。コロナ禍以降、木材価格は前期まで高止まりが続き、現在は若干下がってきたが、未だに高価格帯を維持しており、動向には注意が必要である。

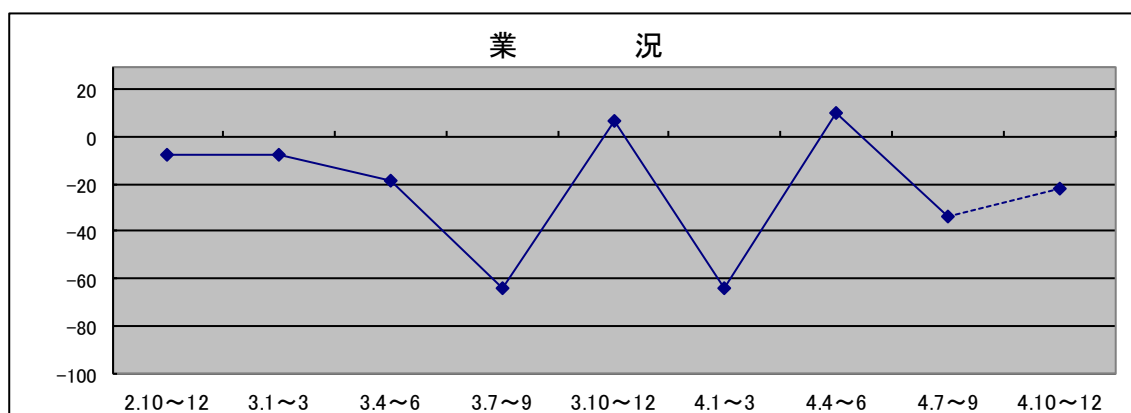
経営上の問題点は前回に無かった「取扱商品の陳腐化」が一番高く、「売上の停滞・減少」「合理化の不足」が同率で続いた。来期は業況が改善、売上・収益・設備も改善する見込みで、資金繰りと人手は横這いと予想している。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△40.0	△33.3	△33.3	0.0	△20.0	△66.7	△20.0	△50.0	△25.0	
売 上	△40.0	△50.0	△50.0	△40.0	△60.0	△66.7	△20.0	△37.5	△12.5	
収 益	△40.0	△50.0	△50.0	△20.0	△60.0	△50.0	0.0	△37.5	△25.0	
資金繰り	△40.0	△33.3	△16.7	△20.0	△20.0	△33.3	△20.0	△25.0	△25.0	
人 手	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△12.5	△12.5	
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	△12.5	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
取扱商品の陳腐化	21.1%	提携先を見つける	28.6%
売上の停滞・減少	15.8%	販路を広げる	14.3%
合理化の不足	15.8%	経費を削減する	14.3%

能登地区の建具業



【概 況】

前期（R 4.4月～6月）業況D.I.は改善したが、今期（R 4.7月～9月）D.I.は△33.3と大幅に悪化、売上・収益・資金繰り・人手も悪化し、設備が唯一横這いとなった。ここ一年間は浮き沈みが激しく、来期（R 4.10月～12月）の予測数値は、業況・売上・収益・資金繰りは改善、人手と設備は横這いで、概ね改善するとの見通しをしている。

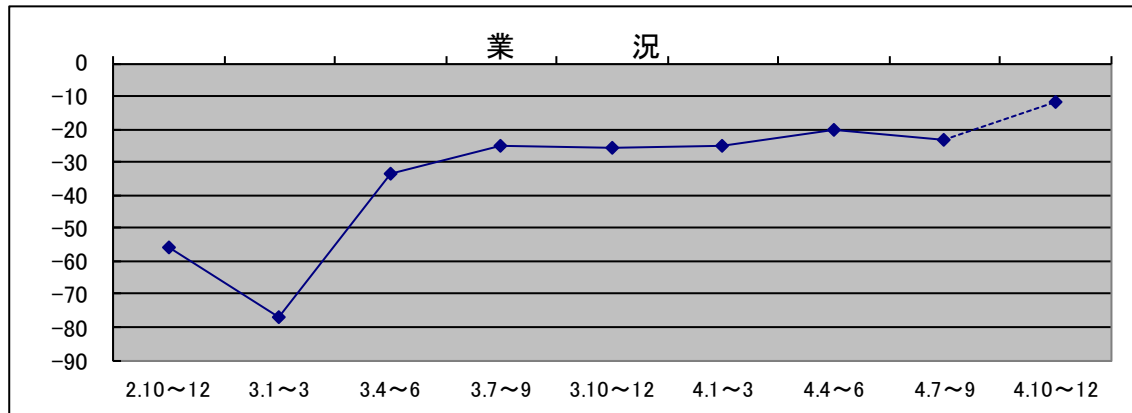
経営上の問題点として「原材料高」と「人件費の増加」が17.4%と同率で一位となり、経費削減など企業努力の必要性が高まっている。当面の重点施策は「情報力を強化する」、「提携先を見つける」との回答が多く、同業者間の競争も更に激化していくと思われる。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業 況	△7.7	△7.7	△18.2	△64.3	7.1	△64.3	10.0	△33.3	△22.2	
売 上	0.0	0.0	△9.1	△50.0	7.1	△57.1	10.0	△33.3	△22.2	
収 益	0.0	0.0	△27.3	△42.9	7.1	△64.3	10.0	△33.3	△22.2	
資金繰り	0.0	0.0	0.0	0.0	△7.1	0.0	0.0	△22.2	△11.1	
人 手	0.0	0.0	0.0	0.0	△14.3	0.0	0.0	△11.1	△11.1	
設 備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
原材料高	17.4%	情報力を強化する	23.5%
人件費の増加	17.4%	提携先を見つける	23.5%
輸入製品との競争の激化	13.0%	販路を広げる	17.6%

能登地区の織布業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.は△23.5（前期△20.0）とやや悪化を示した。今期は人手・設備以外の項目が悪化した。

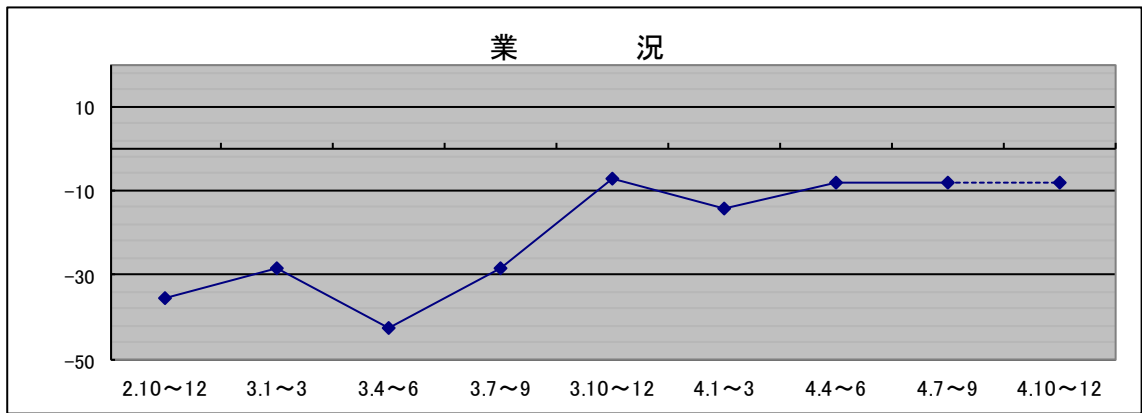
来期（R 4.10月～12月）は業況・売上・収益が改善すると予想、見通しとしては徐々に改善を予想しており、ようやく長い不況から脱せられる未来が見えてきたところである。しかしコロナや円安、ロシアのウクライナ侵攻による物価高の影響が出てくることも考えられ、依然楽観はできない。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△55.6	△76.9	△33.3	△25.0	△25.9	△25.0	△20.0	△23.5	△11.8	
売上	△29.6	△65.1	△29.6	△10.7	△29.6	△20.8	0.0	△17.6	0.0	
収益	△29.6	△69.2	△25.9	△3.6	△29.6	△8.3	△5.0	△17.6	0.0	
資金繰り	△14.8	△11.5	△14.8	0.0	△14.8	△8.3	△5.0	△17.6	△17.6	
人手	△7.4	7.7	△3.7	0.0	△3.7	△4.2	△10.0	△5.9	△5.9	
設備	3.7	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	△5.0	0.0	0.0	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	16.7%	提携先を見つける	34.1%
利幅の縮小	12.5%	販路を広げる	22.7%
原材料高	12.5%	経費を削減する	15.9%

能登地区の繊維・雑品業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.は△8.3と横這いであり、他全ての項目においても横這いの結果となった。

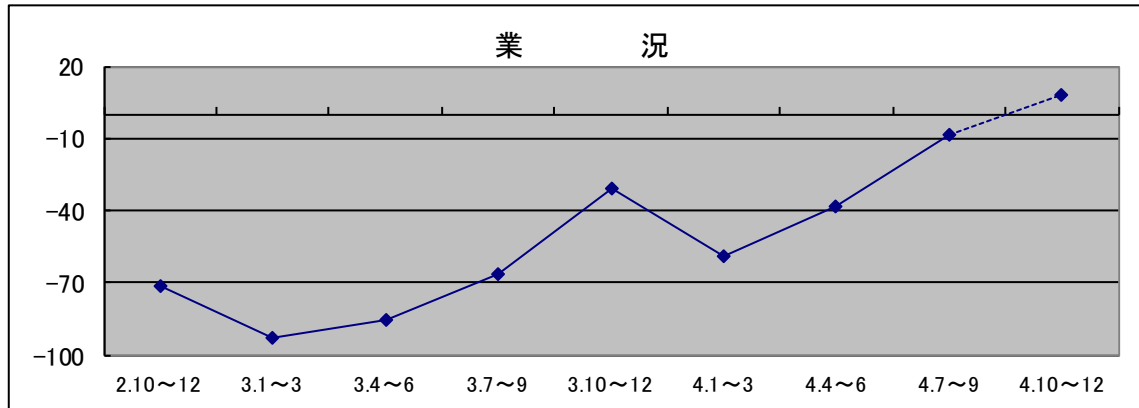
来期（R 4.10月～12月）は歳暮の時期であるため、ギフトのラッピングに使用されるゴム入り組紐等の季節需要等が見込まれるが、業況D.I.については△8.3と横這いを予想。人手は悪化、他全ての項目でも横這いを予想している。

	令和2年	令和3年				令和4年			見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
業況	△35.7	△28.6	△42.9	△28.6	△7.1	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3
売上	△21.4	△21.4	△42.9	△28.6	14.3	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3
収益	△21.4	△21.4	△42.9	△28.6	14.3	△14.3	△8.3	△8.3	△8.3
資金繰り	0.0	△14.3	0.0	0.0	△7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
人手	0.0	△21.4	0.0	0.0	0.0	7.1	8.3	8.3	0.0
設備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

《業績判断D.I.の推移》

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
同業者間の競争の激化	88.9%	販路を広げる	27.8%
売上の停滞・減少	22.2%	新製品を開発する	27.8%
大手企業との競争の激化	22.2%	経費を節減する	11.1%

能登地区の観光業



【概況】

今期（R 4.7月～9月）業況D.I.は、前期（R 4.4月～6月）の△38.5から△8.3と大幅に改善した。コロナウイルス第七波は7～8月をピークに徐々に下がり、行動制限等が無いことで人流は増え、それにより売上・収益は大きく改善し、他の項目も改善を示した。

来期（R 4.10月～12月）業況D.I.は8.3と更なる改善を予想。売上・収益は更に改善されると見ており、設備は横這い、資金繰りと料金価格については悪化するとの見通し。

《業績判断D.I.の推移》

	令和2年	令和3年				令和4年				見通し
	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	
業況	△71.4	△92.9	△85.7	△66.7	△31.2	△58.8	△38.5	△8.3	8.3	
売上	△57.1	△92.9	△78.6	△40.0	0.0	△41.2	△15.4	25.0	33.3	
収益	△57.1	△92.9	△78.6	△40.0	△12.5	△47.1	△15.4	25.0	33.3	
料金価格	△14.3	△14.3	0.0	6.7	0.0	11.8	15.4	16.7	8.3	
資金繰り	△28.6	△50.0	△42.9	△33.3	△18.8	△17.6	0.0	8.3	0.0	
設備	△7.1	13.3	△7.1	△6.7	△12.5	△29.4	△15.4	△8.3	△8.3	

経営上の問題点		当面の重点施策（経営のポイント）	
売上の停滞・減少	16.7%	宣伝・広告を強化する	27.6%
利幅の縮小	16.7%	提携先を見つける	27.6%
材料価格の上昇	13.3%	経費を節減する	24.1%

主要経済指標

◆ 労働

(時間)

	有効求人倍率 (季節調整値)	実質労働時間	
		うち所定外	
2年 10月	1.12	142.8	7.8
2年 11月	1.18	142.4	8.4
2年 12月	1.23	141.9	8.7
3年 1月	1.22	127.9	7.4
3年 2月	1.26	132.8	8.1
3年 3月	1.27	138.8	8.6
3年 4月	1.35	143.7	8.3
3年 5月	1.36	129.2	7.5
3年 6月	1.38	141.4	8.0
3年 7月	1.35	141.5	8.5
3年 8月	1.36	131.7	7.9
3年 9月	1.40	137.0	8.4
3年 10月	1.40	141.3	8.7
3年 11月	1.38	142.5	8.9
3年 12月	1.38	142.2	9.2
4年 1月	1.46	132.1	8.3
4年 2月	1.51	133.5	8.7
4年 3月	1.47	137.3	8.8
4年 4月	1.52	145.5	9.6
4年 5月	1.63	135.9	7.4
4年 6月	1.64	143.7	8.6
4年 7月	1.67	142.6	9.5

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 消費者物価指数

※平成28年より2015年(平成27年)を100としています。

	総合	前年同月比
2年 10月	102.6	-0.7
2年 11月	102.2	-1.0
2年 12月	102.0	-1.1
3年 1月	102.6	-0.4
3年 2月	102.5	-0.1
3年 3月	102.8	0.1
3年 4月	102.4	-0.1
3年 5月	102.7	0.0
3年 6月	102.8	0.1
3年 7月	99.8	-0.2
3年 8月	99.9	0.1
3年 9月	100.2	0.7
3年 10月	100.2	0.3
3年 11月	100.1	0.6
3年 12月	100.1	0.6
4年 1月	100.2	0.1
4年 2月	100.8	0.9
4年 3月	101.0	0.8
4年 4月	101.3	2.0
4年 5月	101.6	1.8
4年 6月	101.3	1.6
4年 7月	102.0	2.2
4年 8月	102.5	2.6

資料: 石川県企画開発部統計課

◆ 信用保証

(百万円)

	保証承諾		保証債務	
	件数	金額	件数	金額
3年 1月	420	4,714	22,087	287,516
3年 2月	638	10,395	22,292	290,467
3年 3月	1,724	33,452	22,781	300,923
3年 4月	820	15,623	23,341	313,128
3年 5月	245	2,328	23,410	314,911
3年 6月	270	1,983	23,401	314,354
3年 7月	246	1,910	23,385	313,433
3年 8月	264	2,077	23,386	312,444
3年 9月	294	2,281	23,390	312,173
3年 10月	271	2,637	23,423	312,011
3年 11月	257	1,849	23,441	311,752
3年 12月	259	2,395	23,443	311,106
4年 1月	187	1,816	23,457	310,460
4年 2月	243	2,172	23,473	310,003
4年 3月	378	4,258	23,495	309,397
4年 4月	208	2,054	23,540	309,746
4年 5月	228	2,331	23,541	309,138
4年 6月	266	2,726	23,543	309,014
4年 7月	246	2,240	23,563	308,535
4年 8月	278	2,803	23,583	307,835

資料: 石川県信用保証協会

◆ 企業倒産件数

(百万円)

	件数	金額
2年 12月	6	413
3年 1月	2	170
3年 2月	4	385
3年 3月	4	3,836
3年 4月	6	509
3年 5月	10	724
3年 6月	7	1,360
3年 7月	4	62
3年 8月	3	204
3年 9月	3	166
3年 10月	7	6,514
3年 11月	4	640
3年 12月	4	578
4年 1月	2	950
4年 2月	4	200
4年 3月	7	2,279
4年 4月	3	184
4年 5月	2	432
4年 6月	4	184
4年 7月	3	705
4年 8月	2	1,210

資料: (株)東京商工リサーチ

主要経済指標

◆ 建築着工

(千㎡、百万円)

	建築着工総数		うち住宅着工	
	床面積	工事予定額	戸数(戸)	床面積
2年 9月	72	14,607	531	45
2年 10月	82	15,291	504	50
2年 11月	96	19,358	672	61
2年 12月	80	16,045	590	54
3年 1月	51	12,277	310	31
3年 2月	163	23,961	465	45
3年 3月	103	24,047	567	55
3年 4月	113	21,857	614	58
3年 5月	102	20,202	571	58
3年 6月	118	22,791	718	65
3年 7月	88	16,623	619	60
3年 8月	76	15,385	789	62
3年 9月	108	19,928	638	57
3年 10月	89	18,306	587	60
3年 11月	184	32,438	896	84
3年 12月	86	20,041	491	45
4年 1月	59	12,492	372	36
4年 2月	63	11,935	474	43
4年 3月	83	17,065	569	50
4年 4月	102	18,001	449	44
4年 5月	95	19,046	625	58
4年 6月	105	18,190	458	47
4年 7月	132	23,646	627	47

資料:国土交通省(石川県内)

◆ 公共工事請負金額

(件、百万円)

	件数	請負金額
2年 9月	553	14,120
2年 10月	546	12,814
2年 11月	345	6,843
2年 12月	299	7,262
3年 1月	211	5,262
3年 2月	152	3,599
3年 3月	127	7,066
3年 4月	509	37,997
3年 5月	389	22,743
3年 6月	584	22,503
3年 7月	664	15,495
3年 8月	471	11,897
3年 9月	537	15,581
3年 10月	458	8,538
3年 11月	402	9,874
3年 12月	271	4,870
4年 1月	193	8,467
4年 2月	112	2,584
4年 3月	99	4,381
4年 4月	609	22,419
4年 5月	318	22,299
4年 6月	669	26,992
4年 7月	627	15,305
4年 8月	592	18,876

◆ 新車登録台数

(台)

	普通自動車	軽自動車
2年 9月	3,048	1,881
2年 10月	2,661	1,581
2年 11月	2,514	1,640
2年 12月	2,339	1,383
3年 1月	2,250	1,326
3年 2月	2,705	1,740
3年 3月	5,105	3,008
3年 4月	2,245	1,506
3年 5月	2,142	1,287
3年 6月	2,472	1,509
3年 7月	2,837	1,439
3年 8月	2,296	1,193
3年 9月	2,105	1,175
3年 10月	2,035	1,107
3年 11月	2,544	1,448
3年 12月	2,280	1,204
4年 1月	2,206	1,265
4年 2月	2,487	1,526
4年 3月	4,396	2,484
4年 4月	1,955	1,297
4年 5月	1,846	1,089
4年 6月	2,225	1,522
4年 7月	2,418	1,513
4年 8月	2,051	1,266

資料:石川県自動車販売店協会

◆ 温泉地宿泊数

(人)

	和倉温泉	輪島温泉
2年 10月	52,385	14,300
2年 11月	64,437	16,500
2年 12月	49,849	10,000
3年 1月	10,858	3,600
3年 2月	10,622	4,000
3年 3月	32,937	6,600
3年 4月	23,814	8,300
3年 5月	17,150	7,300
3年 6月	11,290	4,800
3年 7月	35,443	10,700
3年 8月	43,264	10,400
3年 9月	21,952	7,100
3年 10月	40,773	11,400
3年 11月	59,850	15,400
3年 12月	56,440	10,500
4年 1月	33,904	5,900
4年 2月	14,279	3,800
4年 3月	38,817	8,000
4年 4月	40,914	10,900
4年 5月	47,844	15,300
4年 6月	40,805	12,100
4年 7月	45,894	12,000
4年 8月	73,700	18,700

資料:北陸観光協会、和倉温泉観光協会
輪島市観光協会

◆ 織物生産高

(千㎡)

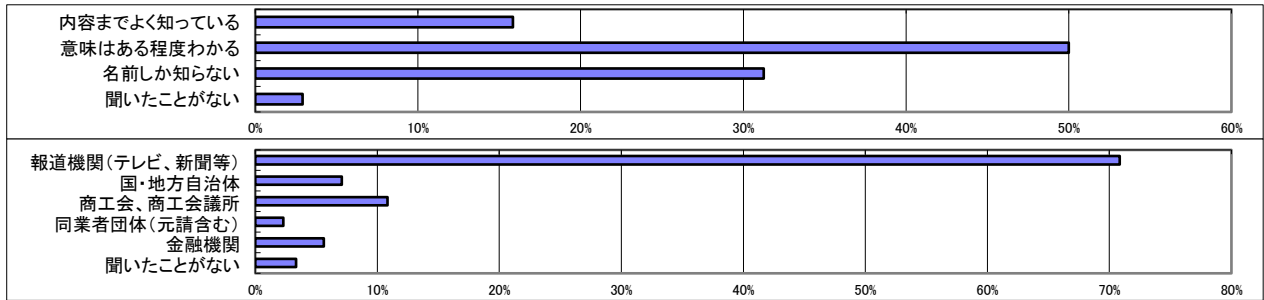
	合計
2年 9月	13,612
2年 10月	15,859
2年 11月	15,282
2年 12月	14,852
3年 1月	15,143
3年 2月	16,191
3年 3月	16,905
3年 4月	17,276
3年 5月	16,199
3年 6月	19,475
3年 7月	19,071
3年 8月	16,987
3年 9月	20,266
3年 10月	21,090
3年 11月	20,272
3年 12月	17,924
4年 1月	17,746
4年 2月	18,866
4年 3月	21,378
4年 4月	18,936
4年 5月	18,496
4年 6月	19,974
4年 7月	20,470

資料:石川県企画開発

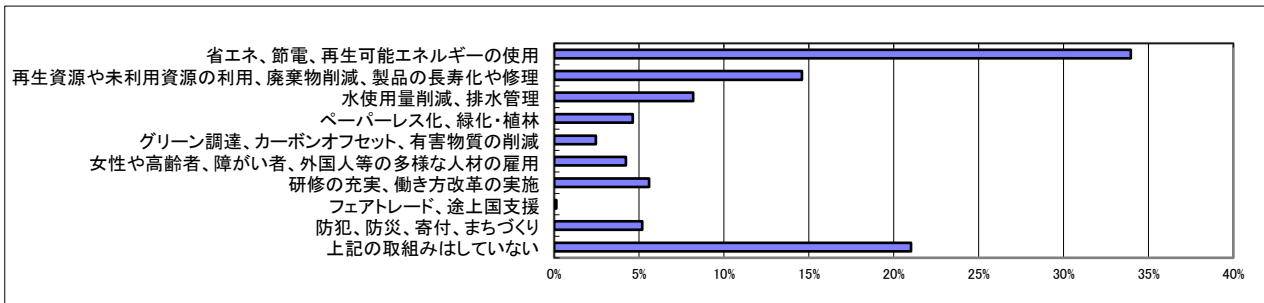
【中小企業におけるSDGs (持続可能な開発目標) の取組状況について】

特別調査

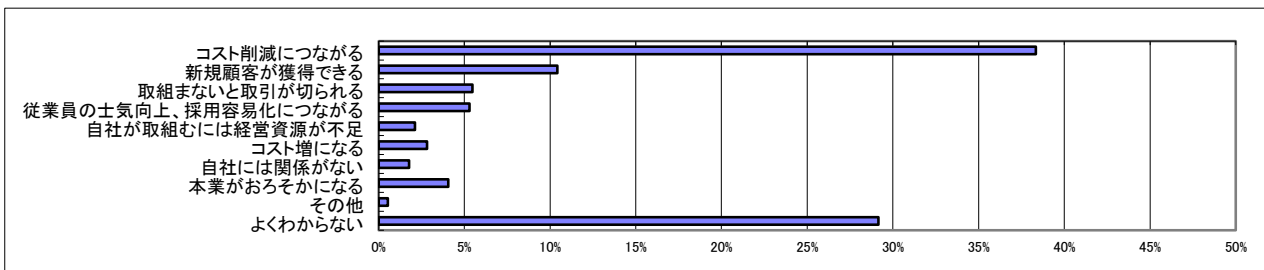
問1. 貴社では、SDGsについてどのような認知度にありますか。



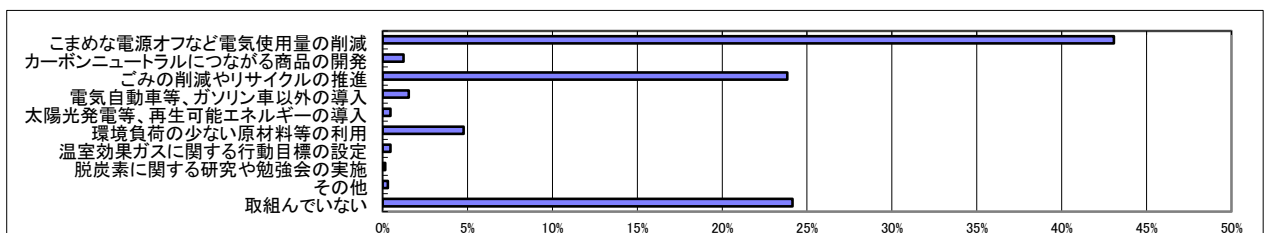
問2. 下記の1～9の取組みは、いずれもSDGsの理念と一致しています。貴社では、これらの取組みを行っていますか。



問3. 貴社では、企業がSDGsに取り組むことについてどのような印象を持っていますか。



問4. SDGsの取組みの一つとして、カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出量の削減ならびに吸収作用の保全及び強化)に関する取組みがありますが、貴社で取組まれている施策は何ですか。



問5. SDGsについて、外部機関(公的、官民間問わず。)からどのようなサポートを期待しますか。

